民主主義の旗

№40・41合併号
発行所
民主主義学生同盟
全国委員会編集局

(一部20円)

全ての民主的学友は
民学同に結集しよう！
民主主義学生同盟全国委員会

社会科学良書の店
曽根崎書店
北区高垣町八五
電話(三三六一)六七二一

北爆即時中止・エンタープライズ号日本寄港阻止

5・17，26統一行動の先頭に起て！

ホワイト・ハウス前大集会に呼応し

北爆拡大に巨大な反撃を

民学同の訴えに高まる支持

四月二十三日、民主主義学生同盟全国委員会は第四回全国委員会を開き、米軍による北ベトナム侵略の新たな拡大の重大な事態について検討し、別頁のような呼びかけと各組織への申入れ書を発表した。二十四日には、全国学生平和団体連絡会議（全学平連）西日本ブロックも5・17国際統一行動への結集を呼びかけるアピールを発表した。呼びかけ、申入れ書の発表と同時に、全国委員会は各組織へ参加を呼びかける行動を開始した。

この五月十七日の闘いは、北爆即時中止・エンタープライズ号日本寄港阻止を中心スローガンとして闘われるものであり、アメリカ反戦運動のホワイト・ハウス前大集会に呼応して国際統一行動の一環として闘われるものである。各平和組織での積極的取組みが要請されている。

四月十五日、ニューヨーク五十万人、サンフランシスコ十万人の大集会、デモ行進をかちとったアメリカ反戦運動は、その準備の過程でいくつかの新しい動きをみせはじめている。

第一は、人種差別に反対して闘っている黒人運動との合流の方向である。その根拠は、ベトナム侵略の長期化が戦費の急増を生み、その内政費へのしわよせが「貧困退治計画」や公民権法の充実を不可能なものとしていること、とりわけ、ベトナム戦での犠牲が黒人に集中化していることに求められる。合衆国人口に占める黒人の比重二一%に対して、ベトナム派遣兵の一六・三%、戦死者の二二%が黒人であり、最前線に黒人が集中的に投入されている事態は「黒人運動急進化の条件を激成し、ベトナム反戦運動と差別撤廃の闘争とを互いに重複させ、直結させてしまった」（エコノミスト5月2日号）

第二には、学生、一部知識人の枠を明白に越えて運動の基盤が広範に広がりつつあることである。米最大の労組の一つである太平洋国際港湾労組が、ミーニー等の反共労働官僚の指導をけって「北爆中止」を要求したことは、これまで全く動きがみられなかったアメリカ労働運動にもベトナム反戦の波が押寄せつつあることを示している。

四・一五の大集会には、科学者のポーリシング博士、黒人指導者のキング師、歌手のピート・シーガー、ハリー・ベラフォンテ、ピーター・ポール・アンド・マリーをはじめ広範な人々が参加し、徴兵カード焼き捨て等も行なわれた。これに対して米政府はFBIを反共工作に出動させ、あるいはまたウエストモーランド司令官の反共国内遊説等を通じて必死に反撃している。

だが、アメリカ反戦運動の昂揚を押し留めることはできないだろう。アメリカの平和諸組織は、四・一五に続く第二波の闘いとして五月十七日にワシントン・ホワイト・ハウス前大集会を提起した。

同盟全国委員会の呼びかけと申入れは、この米反戦運動との国際的連帯をふまえて提起されたものである。

同盟は、四月二十五日、二名の全国委員を東京に派遣し、各政党・政治同盟に申入れを行なった。また全学平連西日本ブロックの大阪学生平和団体連絡協議会（阪大平和委員会、阪学大平和委員会、近大平和委員会、阪工大平和問題研究会）、京都平和のための学生委員会、岡山大学平和のための学生委員会、島根大学平和のための学生委員会は連名で呼びかけを発し、総評・原水禁国民会議、日本平和委員会、中央反戦青年委員会、わだつみ会、都ベトナム反戦共闘、都ベトナム学生反戦共闘、非暴力直接行動委員会、日本婦人同盟などの諸組織に申入れを行い全学平連での取組み、各地方での取組みをめざして、反戦青年委、各地原水禁に働きかけている。

大阪府学連（西村正彦委員長）は、5、17闘争を府学連統一行動として闘うことを決め兵庫県学連をはじめ、京都の各大学自治会に呼びかけている。

これらの呼びかけに各組織、平和団体は支持を表明し、ほとんどが、機関での正式決定を約束している。

同盟各組織でも闘争体制が整備されつつあり、四月二十六日東京都委員会、三〇日拡大全国委員会、四月二十五日、五月一日大阪府委員会、三日阪大支部総会、五日阪大支部総会と着々と準備は進んでいる。

ベトナム情勢の重大性を厳しく認識し、五、六月ベトナム反戦、エンタープライズ寄港阻止の闘いを、5・17国際統一行動を烽火としてただちに開始しよう。

〝米軍は即時撤退せよ！〟、京都市中をデモ

4・18全京都学生平和集会に二百名結集！

―4・28沖縄デー全京都八百決起

ベトナム情勢の緊迫化＝米帝のベトナム侵略の新たなエスカレーションの拡大の中で、京都平和のため学生委員会は、4月18日①4・15全米50万人集会とそれに応えたヨーロッパでの闘いに呼応し②4・20全学平連第一波統一行動の一環として③当日の労働者階級の闘いに連帯し「佐藤内閣のベトナム侵略加担反対・核空母エンプラ寄港阻止・スイン・スローガンに沖縄基地撤去・即時返還―砂川基地拡張阻止―金東希を救え―70年核安保構想粉砕」などを掲げ、全京都学生平和集会を開催し、二百名の参加を得て4・18集会を成功させた。集会は、平学委事務局長の二八沖縄核基地撤去、即時全面返還、五・一メーデー、五・一七国際統一行動を成功させるため、積極的に活動をした。

同委員会は、ベトナム戦略戦争の佐藤政府の積極的に活動をした。

日本への核も情勢のなかで和運動の確立動の展開を開

四・二八沖全面返還闘争上大会（三名市、倉敷市で派遣）等々の帯し、学内集の参加をかち

そのあと、いアッピール県連にベトナ抗議文をつ当ベトナム侵

四月二十七・二十八侵略への怒り、

四・二〇全学平連統一行動の成功を基礎に、四月二十七日、岡大平和のための学生委員会は、「反戦、映画と歌声の集い」をクラスサークルからの参加のもとに圧倒的に成功させた。集いでは、〝流血の砂川〟の映画と、クラス、サークル参加の歌声をたやい、四・二八沖縄核基地撤去、即時全面返還、五・一メーデー、五・一七国際統一行動を成功させるため、積極的に活動をした。

同委員会は、ベトナム戦略戦争の佐藤政府の積極的に活動をした。

日本への核も情勢のなかで和運動の確立動の展開を開

四・二八沖全面返還闘争上大会（三名市、倉敷市で派遣）等々の帯し、学内集の参加をかち

そのあと、いアッピール県連にベトナ抗議文をつ当ベトナム侵

主張

北爆の危険な拡大を粉砕し エンタープライズ寄港を阻止しよう

（1）全国の学友諸君！二年有余にわたって強行されてきた米軍による狂暴なベトナム全土への爆撃、侵略は、いま再び段階的拡大の危険な一段を登りつめた。三月グアム島で行なわれた米・南ベトナム戦争会議が決定した侵略戦争の徹底的遂行の方針は、北爆の強化・第七艦隊による北への艦砲射撃等として表われ四月二〇、二五、二六日と連続して行なわれたハイフォン発電所・石油施設への爆撃、四月二十四・二十五日初めて行なわれた北ベトナムのミグ基地への連続爆撃等の中で重大な段階を迎えつつある。軍事、民間施設を区別しない無差別爆撃と焦土作戦はますます強化されている。解放民族戦線を中心とする頑強な反撃の中で米軍の死傷者は急増し（平均一週間二百人といわれる）そのために米軍の増派も急がれており、今年中に五十万を突破することは確実視されている。

かかる北爆エスカレーションの拡大の中で次の段階は、ハノイ・ハイフォンの無差別爆撃、ハイフォン港封鎖以外にはなく、米政府はその計画を進めつつあることを、二十七日のワシントン・ポスト紙は報じている。

（2）かかる米帝の北爆の質的強化は、長期的、戦略的視点から見れば、彼らが陥入っていく国際的孤立とベトナムにおける軍事的膠着から脱出しようとする〝あがき〟でしかない。

既に前号で述べた如く、国際政治舞台での米帝の孤立、米国経済の悪化の状況、明年に控えた米大統領選挙等の政治・経済的要因は、短期決戦を米軍にとって不可欠のものとしていた。だが、米軍の短期決戦型戦略は、南ベトナム解放民族戦線の頑強な抵抗と反撃によって成功せず、昨年12月までに近代的ゲリラ戦型の編成を完了していた解放民族戦線の長期持久戦略に不可避的ひきずりこまれていた。米軍戦死者の急増、米軍機の損害の増加（22日米軍司令部発表、飛行機千三百九十一機、ヘリコプター八〇八機）はその一端を語っている。四月四日の解放民族戦線によるクアンチ省都の一時占領は、米・南ベトナム政府にショックを与え、十五日には非常手段として非武装地帯南側に防御要塞線の建設を開始し、政府軍側は、「クアンチ市と、最悪の場合はユエ市の放棄まで考えている」といわれている（16日、サンケイ）

（3）かかる軍事的な膠着状況を脱出し、戦況の主導権を奪回して短期決戦戦略を遂行すべく打ち出されてきたのが、現在の北爆の新たなる拡大であり、日・英・加・豪などの支持と侵略戦争への積極的加担を取り付けつつ、米国内世論の統制によって、国際舞台での孤立を回避し、また銃後を固めようとしている。ウェストモーランド現地派遣軍司令官の二時帰国と国内遊説は、国内世論工作の強力な手段であった。

だが、四・十五〝春の大動員〟をかちとったアメリカ反戦運動は、かかる反共攻勢を許さないであろう。本質的には米支配層内の一分派である、いわゆるハト派でさえ、ウェストモーランドの〝反戦運動は非愛国的だ〟というマッカーシー旋風を思わせる発言に対しては轟々たる反対の声を上げた。ハト派の代表者といわれるフルブライト上院外交委員長は「ウエストモーランド司令官の帰国によって大規模な米軍増派運動の開始が告げられたと解すべきである。またこれによってジョンソン政権はいまやベトナム戦争をめざして交渉解決の意図を捨てたことがはっきりした。第三次大戦に向かう以外の何ものでもない」と非難した。

ジョンソンの強硬戦略に対しては、米国人民の間からも反対の声が高まり、アメリカ反戦運動はいま質的な転換、発展期に入っている。第一に、それは黒人の公民権獲得の闘いと合流しつつある。第二に、非組織的、自然発生的なものから、次第に組織的なものへと高まりつつあり、学生、一部知識人の枠をはっきりと越えはじめている。四月十五日の二〝全米春の大動員〟の運動は、はっきりとその証を示している。

（4）米軍の侵略戦争のかかる推進の中で、佐藤政府は依然としてその戦争加担政策をかえていない。LST兼組提供の黙認、武器・弾薬の輸出（自衛用兵器の輸出は可能だという政府統一見解をみよ）等を含め、軍隊の直接派遣以外のいっさいの可能な加担を遂行している。

米原子力航空艦エンタープライズ号の日本寄港の策動は、それらの一環として追求されている。四月三〇日の毎日新聞の報道によれば、三ヶ月単位の補給の必要と戦局のエスカレーションによって、その寄港が七月もしくは八月に行なわれるようなことは確実視されており、五月下旬にはアメリカ側から日本政府に通告があるだろうといわれている。

既に前号で述べた如く、エンタープライズ号の日本寄港を阻止する闘いは、米帝のベトナム侵略への重大な打撃となに留まらず、同時に、佐藤政府の日本核武装路線に対する闘いとしても重大な意味をもつものであり、かかる意味での先頭にたつことは、ベトナム反戦闘争と日本核武装阻止の闘いの先頭にたつことを意味している。

われわれは、五、六月の全国的反対運動の展開をもって先制攻撃をかけ、その日本寄港を断乎阻止しなければならない。

（5）別稿で明きらかにした如く、米反戦運動は四・一五に続く〝春の動員〟第二波として、五月十七日にホワイト・ハウス前大集会を行なうと伝えられている。

この同盟は、この米反戦運動に呼応して、全国的ベトナム反戦闘争を国際統一行動の一環として闘うことを決定し、各政党、平和団体、学生組織に〝呼びかけ〟と〝申し入れ〟を発した。同時に、全学平連西ブロックも、アピールを発表している。

この五月十七日の北爆即時中止要求国際統一行動を大きく昂揚させ、五、六月闘争の烽火とすることは、エンタープライズ日本寄港阻止の先制的闘いとしても決定的意義をもっている。

全国のすべての平和組織、学生自治会は、5・17闘争に総決起しよう！そしてそのための準備をただちに開始しよう！

侵略への怒り、

二三春の大の一方批判しワシントイト・決するトナム流し、トナムる決議範な層査では リカ国いるこ ナダ、ンダ、モが行モの共ベル・が即時発表。ナム外アメリカえでベ実現出

全国的ベトナム反戦闘争の先頭にたち

春季自治会選挙に勝利しよう！

民青の自治会分裂策動を粉砕し 自治会の完全民主化を

―大阪学大池田分校

〈阪学大支部発〉昨秋の阪学大学名変更（学芸から教育）反対闘争は、横国、奈良学に続き、過半数の学友の参加（全学友三〇〇〇名中一五〇〇名出席の学長会見）で闘かわれた。

ところが、この大衆的闘いの中にあって池田分校自治会常任委員会（民青系）は、運動の高揚を恐れ、闘争体制整備をめざした、広範な学友の学生大会開催要求署名を三度までも握りつぶした。

彼らのこのような暴挙は彼らを自らのクラスでリコールに追い込み、委員長さえもリコールされる事態の中で、12月10日過半数の自治委員の支持で新たな常任体制が発足した。

しかし、民青の徹底したセクト主義、分裂主義はこの規約にのっとった正式のリコールを認めず、自治会費を横領したまま、学友の意志を無視して居座りをきめ込み、自治会室の共同使用という奇妙な事態が続いている。

民学同同盟員が中心となっている新常任委員会は昨年春、大阪府学連第29回大会を機に民青系第二府学連を脱退して二年半ぶりに大阪府学連に復帰、また三月の全国ゼミナールには代表三名を送り、学名変更反対闘争の報告を全国の学友に行う等、池分自治会の唯一の代表としての活動を開始してきた。

特に全ゼミ教員養成制度分科会では、東北大、岩手大の学友と「諸要求路線批判」「教官との共闘の把え方」等多くの点で意見が一致し、討論内容をリードし、ただ一人参加した旧常任委員を戸惑わせた。

新入生を迎えた四月も、彼らは常任を名のり続けているが、現在の彼らは四年前、池分自治会（一九六四年七月に、彼ら民青は、執行委員候補が学生大会で否認されたにもかかわらず、承認されたとして池分自治会を占拠し、それ以後も私物化をつづけてきた）をのっとって以来、最低の力量になっている。

民青内の良心的部分とセクト的部分の分岐がかってなく大きく、お家騒の官僚的組織動員を生かしきれておらず、数名の自治会活動家によって分裂運動に狂奔するのみで何ら運動をする気配がない。

新入生歓迎の講演、映画、学科別討論等を提起しはするが、新入生を三〇名以上結集したことがない。

こうした状況の中で「全学連」特に第二府学連はかってなく色をなくし、新入生にとってはジョンバエズ、星野安三郎氏を迎えて平和集会、新入生歓迎会を行なった大阪府学連こそ真の府学連だという認識が強まっている。

新常任員会は、4月22日府学連新入生歓迎会を情宣する中で、パンフ「自治会の案内」を使って、自治会ガイダンスを行なった。これらの活動の中で、4月22日の大阪府学連新入生歓迎会には約七〇名の一回生を結集した。

当面の学内課題は、新設食堂の生協化であるが、その中で自治委員選出をどのように行うかが最大の問題である。民青系の居座り策動の結果、二つの自治会常任委員会という変則的事態となっているが、これを克服するために統一自治委員選挙を民青系にも承認させねばならない。

一方、第二府学連委員長を出している平野分校では、今年始めて自治会員選挙準備を組織的に行ない、十六名中四名を確保、来年への展望をつないだ。

また天王寺分校では、学名闘争を弄ポタージュし大衆的基盤を失墜した民青を相手に、我が民学同が社青同に代わって、多数派内多数派として、準備を進め、ダブルスコアを目標に頑張っている。

五月十日までには大勢は判明する。

これらの選挙戦に勝利し、池田分校自治会から完全に民青派を追放して中執体制を奪回することが必要である。

とりわけ、民青系第二府学連が停滞と力量低下を強めている現在、その拠点たる平野・池田両分校自治会を府学連に復帰させることの意義は大きい。

前に書いたように、池田分校自治会は、民青派執行部がリコールされて、われわれが新常任委員会を学友の支持をうけて組織した昨年12月に、大阪府学連に復帰した。しかし民青派はそれ以後も学友・自治委員の抗議を無視して居座り、第二府学連に加盟していると称している。従って、民青の分裂自治会の策動を排し完全民主化をかちとることは決定的に重要である。

同盟員を中心として、いま三分校の民主的学友は勝利の展望を切り開きつつ頑張っている。

中執選挙の完勝をめざして

―多数派三年目の統一会議

大阪市立大学

〈阪市大支部発〉大阪市立大学では五月下旬に第二回自治会中執選挙が闘われようとしている。過去二年間、自治会多数派として、市大自治会の〝統一と革新〟を担ってきた統一会議は、今選挙でも早くも勝利の確信にあふれている。

民主主義学生同盟を中核とした統一会議は、昨年一年間の自治会指導で幾多の貴重な成果を納めた。10・21ベトナム反戦闘争において、全国に先がけてストライキを成功させ、教養の圧倒的クラスで大きな信頼を勝ち取った。更に、昨秋の入学金値上げ反対闘争では、大学当局の値上決定を阻止した。この他にも自治会の多様活動分野で、文化サークル連合の結成、ニュンプの開催等を行ない、市大文化サークル運動の発展に貢献した。

今選挙でのわれわれの目標、獲得物は、第一に、トロッキスト諸派の急速な凋落の中、民青との全面的対決が選挙の焦点としており、したがって、民青＝全学連支持会議の一貫した、ボイコット、分裂の政策にとどめをさし、市大自治の統一と革新の道を引き続き守りうち固めること、第二に、激化する内外情勢のなかで、ベトナム反戦、授業料値上げ、学生生活の擁護、改善などの諸課題を定着させ、こんご一年間に担われる諸課題と、闘いの方向を意志統一することである。ことに入り、新入生歓迎会の建設を中心とした例年にない自治会活動の体制の整備、拡大という有利な条件を背景にもっている。ベトナム反戦を中心としたこの間の闘いは、「五・一三ベトナム反戦、エンプラ寄港阻止全学討論集会」に向け、各クラスでのベトナム討論、研究会の組織化が進んでおり、数百名の学生、大学人により、反戦の決意を固め、来るべき五・一七闘争、エンプラ寄港阻止闘争の準備を着々と押し進めている。

これらの闘いの中で自治会の統一機能を強化しつつ、広範な学友の支持の中で民青系の全学連支持会議を粉砕することが、中執選挙にむけての統一会議の基本戦術である。

中執選挙は、全学区十名（全学名不完全連記）七つの学部区各二名計七名（単記無記名）の計十七名を巡って闘われる。

昨年の選挙においては、わが同盟を中核とする統一会議は、全学区五名全員の高位当選、文・経・医・理工学部区における勝利によって過半数九名を獲得した。民青は、全学区三名、商・家政学部二名、計五名を当選させた。

トロッキスト諸派の急速な分解、凋落の中で今選挙が民青派との全面対決の場となることは明白である。さる六日新入生活動家を迎えて新たに結成総会を開いた統一会議は、全学区候補五名の全員高位当選はむろんのこと、昨年民青に惜敗した学生は勝利し、とることを

自治会の統一を守り 圧倒的勝利へ向

―大阪大

〈阪大支部発〉

安保闘争以後一貫して統一を堅持してきた大阪府学連、そしてその中で中核部隊として闘ってきた大阪大学の各自治会は春期の選挙を控えて、とりわけ、民青系「全学連」の諸君の大衆運動次元における分裂行動の対置という分裂主義、セクト主義を粉砕し自治会の統一機能を守り、当面の一致する課題での大衆闘争をさらに一層強固なものにする中で選挙闘争を闘い抜く態勢を固めている。今選挙はベトナム反戦エンタープライズ寄港阻止の闘争、授業料値上げ反対、奨学金拡充要求を中心とした学生生活擁護の運動を如何に統一的に進めるかが最大の課題であろう。

（教養部自治会）大衆運動の拠点として活動してきた教養部自治会は「大学の自治・学生生活擁護・教育改善のための全阪大五月ゼミナール」（別頁）と五月中旬から六月上旬にかけてのベトナム反戦・エンタープライズ寄港阻止闘争の二つの課題をかかえ現在運動方針の具体化を

第

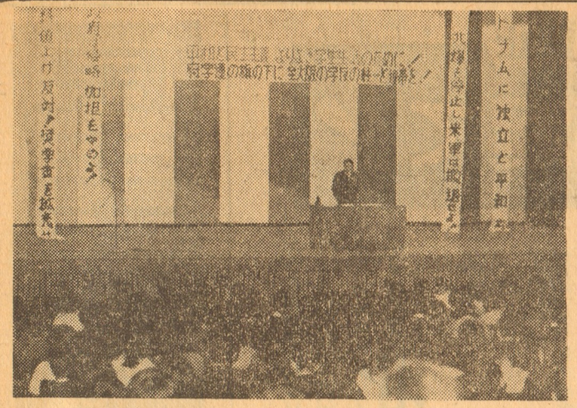
「働く者の守りベトナ

星野安三郎先生（東京学芸大学）を迎え

全大阪七〇〇名の学友集う！

―大阪府学連新入生歓迎会

新緑の四月二三日全大阪の新入生七〇〇名を結集し、大阪府学連新入生歓迎会が行なわれた。現在のわれわれをとりまく情勢は、われわれにベトナム侵略反対、大学自治、学生生活擁護斗争を最重要な課題として提起している。こうした中で行なわれる府学連新入生歓迎会の意義は四、五月の大衆斗争の課題―沖縄返還要求、砂川基地拡張反対、エンタープライズ寄港阻止、授業料値上げ反対、奨学金拡充要求―を全大阪的に確認し、現在強まっている反動のイデオロギー攻勢に対する科学と民主主義の立場を明確にすることであり、同時に新入生歓迎会の圧倒的成功を通じての府学連の大衆的権威の確立であった。以上の基本的意義付は、七〇〇名の圧倒的多数の学友の参加と大阪総評、護憲連合、軍縮協、関西国民文化会議、全大阪反戦青年委等の民主団体の熱烈な連帯の挨拶とそれにつづく企画の中で強く確認され、全国学生戦線の分裂なかんずく、大阪における民青系第二府学連の分裂策動を粉砕する上で巨大な一歩を築いたといえる。



講演される星野安三郎先生

「憲法と大学」

―星野先生講演

この歓迎会の記念講演は東京から急きかけつけてくださった星野安三郎先生（東学大）によって行なわれた。「憲法と大学」―特に憲法学者として、自衛隊の違憲性については過去一貫して批判し、日本政府の軍備拡張への危険な志向を指摘して来られた先生は、現在の大学をとりまく情勢の中で、我々が憲法に保障された「学問の自由」「大学の自治」を守りつつ大学の社会的使命を果すためには平和に対する重大な挑戦、即ち、アメリカのベトナム侵略と佐藤政府の積極的戦争協力に真向から対決し、民主主義の破壊、空洞化への動きを打ち砕き、我々自身を民主勢力の一翼として位置づけ運動の組織を行なうことが必要であると強調された。

先生の講演は、アメリカの北爆の狂気的拡大、佐藤政府の沖縄の永久基地化→砂川基地拡張→エンタープライズ入港寄港認の一連の動きの中での公然たる侵略加担政策への転換局面の中で、また国内における反動体制整備の進行の中での大学の使命を新入生諸君に極めて明解に終始説得的な形で語られた。

反戦歌手・高石友也氏も参加

引き続き一・一九ジョーン・バエズを迎えての全大阪平和集会（前号紹介）で同じみの高石友也氏が忙しい中を参加され新入生諸君と大合唱、プロテストソングを歌いベトナム反戦を訴える同氏と固い絆を結んだ。

われわれの持つ全ゆる武器を最大限利用し様々の形態で全ゆる分野で反戦運動を進めてゆく必要性が痛感された。

「外国人学校制度」に関する特別報告

―在日朝鮮留学生同盟

特別報告は、今国会へ政府支配者層が提出しようとしている「学校教育法一部改正」すなわち「外国人学校制度創設」による在日朝鮮人の民主主義的民族教育抑圧に関してであった。（前号全国委員会アピール参照）大阪の留学同外務部長金英一氏による在日朝鮮公民の民族教育の正当性と実態の報告、事態の緊急性と日本人民への訴え、日朝両国民の固い連帯の確認は満場の拍手で迎えられ闘争の決意を固めた。日朝両国民の団結を何人も砕くことはできないであろう。

最後に映画「明日に生きる」が上映され府学連新入生歓迎会は成功裏に終了した。

われわれは歓迎会において全大阪的意志統一を勝ち得た。歓迎会の成功は府学連の大衆的権威の確立、民青系第二府学連の分裂策動の粉砕を通じての全大阪の学友の利益を代表した統一闘争の基礎の確固とした保障である。われわれはさらに高く統一の旗をかかげ大きな歩みを続けるであろう。

〝いちょう祭〟に一五〇〇名

岡田阪大総長も講演 ―大阪大

二千名に及ぶ多数の新入生を迎えて、4月28日新入生歓迎〝銀杏祭〟が大阪大学中ノ島講堂で行われた。当日は総長の岡田実先生の講演があるとあって一五〇〇名の新入生が続々と参加してきた。映画「戦艦ポチョムキン」に引き続きひとさわ参加者の関心が高まる中で岡田先生の講演が始まった。

先生は特に、真理探究の場としての大学に入学した新入生に大学の本質、大学における研究教育の意義とその社会に果す役割を強調された。更に科学技術の高度なそして急速な発展の中で自らの位置を見失なうことがあってはならないと阪大における大量留年の問題に言及されつつ注意を喚起された。

サークル出演―阪大フロイント・コールの合唱

次に総長講演と並ぶインプログラム「全阪大フェスティバル」フロイントコール等歌声サークルの大合唱、器楽サークルの名演奏は舞台、客席の区別なく全員の中に融け込み集会の雰囲気はいやが上にも盛り上がった。一昨年秋の大学祭の圧倒的成功を契機に阪大の文化運動は大きく発展し始めた健康で人間らしい人間性の向上を表現する文化会体育会の成功、4・28沖縄返還協定の一連の派遣などの平和運動、学友の運動に出している。

最後にこの統一した祭典ことは阪大の的一ページを

体育活動は

活動の意義は

動の意義は

氏が「何に

明細を一力

予算の増額

なわないと

現在各大学

る自主的

祭〟を契機

活動を形成

迫、文部省

われている。

治活動サー

ルが「何に

していた学

に全学的な

ツ活動の一

ならない。

その意味で

文化会体育

統一した祭

ことは阪大

的一ページを

健康で人間

ムを表現す

人間性の向

つつあると

劣な音楽が

氾濫している

動の意義は

える。われ

れ、文化水

治活動サー

われている。

迫、文部省

われている。

治活動サー

ルが「何に

明細を一力

予算の増額

なわないと

現在各大学

る自主的

祭〟を契機

活動を形成

固い絆を結んだ。

38回メーデー

ベトナム反戦生活擁護の闘いを確認

「団結で生活と権利を守れ」「ベトナム侵略を阻止し世界平和を闘いとろう」――第三十八回メーデーは五月一日東京・大阪・京都を中心に働く者の団結の絆を固めつつ積極的な闘いの方向を基本的に確認し得たと言える。

統一地方選挙における革新陣営、民主勢力の前進、とりわけ東京都における革新知事の出現という有利な条件を背景として闘われた今回のメーデーは次の様な意義を有していた。まず第一に、激化するアメリカのベトナム侵略、ハノイ・ハイフォンの産業地帯の大量爆撃が強行され、ハイフォン港の封鎖が現実のプログラムに上っている現段階において、世界平和を願う労働者・学生がアメリカの侵略行為に反対し英雄的ベトナム人民との固い連帯を結び、日本の佐藤政府の侵略加担政策を転換させることであり、第二に、外に向っては侵略、内においては反動体制の整備を強行しようとする佐藤内閣の人民収奪政策を労働者学生の固い団結で粉砕し、物価引下げ、最賃制確立、社会保障の充実をかちとってゆくことであった。

われわれはメーデーの組織の中で、またメーデー以後の中で以上の意義付を具体化し闘いの成果を勝ち取ってゆかねばならない。

大阪府学連では、4・15ベトナム反戦金東希を守る全大阪集会、4・28沖縄デーの大衆的取り組みと海上大会への代表派遣、沖縄返還要求の闘い、授業料値上げ反対奨学金拡充要求の運動を通じて、労働者との共同の闘いを組むべく努力してきた。民主勢力の一翼としての学生が平和、生活擁護の共通の課題をかかえ、〝大阪府学連の旗のもとに固く結集し5・1のメーデーを闘い得たことは大きな成果であろう。われわれは当日にも府学連の隊列に度重なる暴力行為をしかけ、分裂策動を行ない分裂行動をとった民青系第二府学連の諸君のセクト的・暴力的態度を弾劾すると同時に一貫して統一の旗を守り続けてきた府学連の隊列の一層の強化の上に立ち5月中旬から6月上旬にかけてのベトナム反戦、エンタープライズ寄港阻止闘争、学生生活擁護闘争の先頭に立って起ることを誓う。

自治会旗を先頭に行進する府学連の学友

全大学人の意志統一めざし

ベトナム反戦全学集会

―5月13日、大阪市立大学

〈大阪市立大学支部発〉大阪市立大学における今春の闘いは、ベトナム反戦、エンタープライ号寄港阻止闘争として大規模に準備されてきた。

新入生歓迎会の例年にない成功自治会書記局員によるクラス基礎組織の建設は着々と進み、一回生では8学部22クラスで運営委員会がつくられた。二回生でも、四・二八沖縄デーでのクラス活動家の結集によって、クラス運営委員会ベトナム研究会の再建が始まっている。

クラスごとのアンケートや、金東希支援集会、署名等に一回生学友の新鮮な関心は高く、「アメリカは北爆をやめるべきだ」「ベトナム戦争はベトナム国民にまかすべきだ」との意見を述べる学友が多数いる。

このようなベトナム反戦の昂まりと、クラス活動の諸準備の進行を背景にして、五・一三ベトナム反戦全学討論集会がもたれようとしている。五・一三闘争の意義は第一に、戦争拡大の新たな危機に抗し北爆拡大反対、エンプラ寄港阻止の全学的意志統一を勝ち取ること、第二にクラス、平和委員会、各学部委員会、研究会サークルなどの学生諸組織の共同の努力でベトナム反戦の連帯を一層打ち固め、教職組・院生等の多数の参加を得て、全大学人で反戦の決意を固めること、第三に、五・一七ベトナム反戦闘争の圧倒的な昂揚を勝ち取るべく、課題討論内容の全学への定着と、諸組織の自主的参加による学友の政治的経験を

日ソ青年友情祭典へ取組み

同盟全国委員会、中央実行委に加盟

去る四月二十七日、日ソ青年友情委員会理事志村氏は、上京中の民学同全国委員に対して、民学同が同委員会へ加盟するよう要請があった。

これまで同盟は各地方委員会レベルで日ソ青年友好運動に取組んできたが、この要請を検討した結果、中央実行委員会に全国委員会として参加することを決定した。

第三回目を迎える日ソ青年友好祭は、ことしは、八月二十一日から九月十七日の約一カ月間にわたって、ソ連各地で開催される。日本からは、約二五〇名の代表派遣（一人16万円）が予定されている。

また、恒例の第9回日本祭典は七月二十二日から三日間、山中湖畔で開かれる予定である。同盟では、これらの祭典への積極的参加とともに、琵琶湖キャンプをも成功させようと準備を進めている。

なお、山中湖での第九回日本祭典には、民青は、「修正主義者を排除すること」という条件が入れられれば参加すると、非公式に交渉を進めているといわれている。

北海道大学支部結成宣言

北大における先進的学友が結集することによって、ここに「民主主義学生同盟」北大支部が結成された。

世界史の変革期にあたって、いまやベトナム戦は世界構造の矛盾を集約的に露呈しており、復活した日本帝国主義は、ベトナム侵略戦争に加担し、巧みに海外、膨張政策を押し進めている。佐藤内閣の国内反動諸政策は、諸物価の高騰、産学協同、大学の自治破壊等々として、我々学生の前にさしせまった問題をなげかけている。

このような激動する内外情勢のなかにあって、我が北大における民青、トロッキスト派は、あいもかわらぬセクト抗争によって学生運動を分断し、ベトナム反戦闘争、新寮規闘争に有効な運動を展開できずにいる。これら既存の諸派は、層としての学生運動を否定し、「自治会民主主義の原則」「批判の自由と行動の統一」を破壊することによって、学友のなかに脈打っている平和と民主主義、学生戦線統一の要求を、押し殺す結果を生ぜしている。

我々は、このような北大の状況のなかにあって、科学と民主主義の理論を貫徹する「民学同」北大支部結成の意義は大きいと確信する。我々は、平和と平和共存、反独占民主主義の正しい路線を堅持し、北海道において果敢な闘争を展開するであろう。

全国の同盟員、学友諸君ノ三つの「全学連」を止揚し、単一全学連第三創成期めざして共に奮闘しよう！

一九六七年二月

民主主義学生同盟北海道大学支部

4・20全学平連の闘いに呼応し

一五〇名のゼッケンデモ

大阪平連協、行動に起つ

去る3月1日、静岡市で開かれた「3・1ビキニデー全国学生平和集会」が意志統一して全国の学友によびかけ、ベトナム侵略反対、日本政府の侵略加担とりわけエンタープライズ号寄港阻止を要求する全国的な学生の平和の統一行動として4・20の闘いが提起された。

米国において未曾有の高まりと拡がりを示した、「4・15国際統一行動」の世界的な高揚を受け継ぎ、それをさらに発展させるべく、平連協は4月16日代表委員会を開いた。会議は大阪で平連協のよびかけによる大衆的なゼッケンデモを行なうことを決定し、傘下各大学の平和組織の学園におけるイニシアティブによってグアム島会議以後増々迫いつめられたものの狂暴さで世界の良心に挑戦する米国政府に断固とした抗議の声をあげるべく準備が進んだ。

この日午後六時、大阪駅前に集った各大学の平和の闘士たち約一五〇名は、簡単な合目的行動の意義とベトナム情勢の確認を行なった。〝米国は北爆を直ちに止めよ〟〝米軍即時撤退〟〝解放戦線をベトナム人民の真の代表として認めよ〟〝エンタープライズ寄港阻止〟〝砂川基地拡張反対〟〝金東希君を強制送還するな〟等のスローガンを掲げゼッケンをつけた参加者は整然と隊列を組んで行進を行なった。折からラッシュ時、動員されたビラは、平連協の運動の広がりと貧的な高まりを示すものといえよう。ビラを受け取ったある人がジッと見入り、目を上げて「頑張って下さい」と二年生の参加者を激励したのは大きな確信を与えた。

当日の行動で半数近くの参加者をかた市大平和委はじめ、各大学に平和組織の大衆的イニシアチブが徐々に浸透しはじめていることが示された。とくにまだ新しい桃山大学平和委が20人近くを結集したことは大きな成果として平連協および他大学からの激励と力づけの的となった。

この日の行動の成果をさらに4・22大阪府学連新入生歓迎祭への運帯、4・28沖縄デー海上大会への代表派遣、そしてわが同盟がイニシアティブをとって準備を進めている5・17北爆即時中止要求国際統一行動にむけて平連協はさらに国際的な連帯を強め、国内における大衆的な平和闘争のイニシアチブの確立に突進している。平連協の代表者は5月初めに代表委で大衆的に意思統一を固め八・六大会まで見通した長期的な運動方針を確立すると語っている。

〈編集後記〉

▽アメリカのベトナム侵略の狂気的な拡大の中で、平和の闘いの炎を燃やし続ける全国の学友、同盟員諸君に機関紙No40、41合併号を送ります。

▽民主主義勢力のたち遅れの中で、一貫して正しい方針をもち、大衆行動を展開しているわが同盟の一層の拡大と強固な意志統一にこの機関紙が役立つことを心から期待します。

▽「ベトナム反戦闘争の先頭に起とう」のスローガンの下に果敢に闘い輝く支部結成をなし遂げた北海道大学支部、島根大学支部の「結成宣言」はわれわれの隊列の力強い前進を如実に示すものである。学生運動の真の統一へ向けて巨大な歩みを進むことなく続けよう。

▽次号（No42）は、五月二十日頃に発行の予定です。

次号は全大学における選挙のスケジュール、情況、結果を詳細に報告の予定です。

各支部からの通信を期待します。

トロッキストを追いつめる明大支部

―文・政経自治会民主化へ前進

〈明治大学支部発〉明大学費値上げ反対闘争を社学同の恥すべき裏切りを弾劾しつつ先進的に闘っている同盟明大支部に、現在明大学友の広範な支持と期待が寄せられている。

闘いの中で成長、拡大しつつあるわが明大支部は、春の自治会選挙の勝利を期して闘っている。

4・20阿「統一」会議の集会、4・27、4・28、5・1メーデーの闘い等を指導する中で一回生からの支持を定着しつつある。

学部自治会選挙は、現在すでに代議員選挙が進行中である。

文・教育・農・工学部では引き続いて勝利し得る見通しが開けている。

これまで社学同が多数派であった医学部でも、社学同の分解の中で統一会議への指導権の移行はほぼ確実である。医学連のインターン制に対する闘いの重要性を考えるとき、医学部自治会選挙での勝利は決定的に重要である。

法科自治会の多数派であったマル学同中核派も、現在ではそれを維持し得る力量を有していない。したがって法科自治会では、民青派と統一会議の対決となるであろう。

これら学部自治会選挙は、六月初旬に行なわれる予定の自治会連合中執選挙に集約される。この闘の闘いにおける社学同、マル学同中核派の分解傾向と無対応、民青派の無方針とわれわれの方針への完全な追随の状況は、中執選挙における統一会議の勝利の展望を明るいものとしている。

過去三ケ年間、同盟岡大支部結成以来、一貫して岡大学生運動を指導してきたわれわれは、五、六月選挙戦においてより一層の前進を果し、全国学友の期待に応えるであろう。

同盟が中心となっている統一会議は、この選挙を岡大学生運動の飛躍の契機にしようとはりきっている。

自治連中執選挙の準備進む

―岡大統一会議

〈岡山大学支部発〉中国地方学生運動の拠点であるとともに、民学同における中国地方拠点支部としての重責を担っているわれわれの全学への定着と、諸組織の自主的参加による学友の政治的経験を

「平和委員会」を組織し

平和の砦建設へ

大阪女子大

〈女子大支部発〉

昨年活動してきた「ヴエトナム平和を要求する会」は、日常的宣伝曝露を継続してきた。それをさらに平和運動全体に対処するため四月「平和委員会」として再発足させ、大阪平連協との関係をより緊密にし、多様な平和のための部隊を作ろうとしている。女子大を張固な平和の砦とし、これで先進的な平和の先進部隊を組織し、広範な大衆運動を形成しようとしている。新入生を迎え、約数名が平和委員会に入り四・二〇、四・二三闘争を先進的に展開した。また、二四～二八日、他平和組織と共催し、岡村昭彦写真展を行い、平和委員会の政治的市民権を獲得しつつある。

一方、総務委員会を指導している民青は四・二八沖縄デーに向け、きわめて無責任な行動提起を行ない、課題としてある万代会費（後援会費）の不当徴収に対しては、不払をよびかけたりして、今後の方針も提起していない。

こうした中にあって、わが同盟の役割は非常に重要になっている。現在停滞している自治会活動を再度掘り起し、自治会の民主化強化のための活動に向け、全員とのため一体となって運動を進めている。